工　　事　　概　　要

工事名　　国立文楽劇場照明設備改修（ＬＥＤ化１）工事

国立文楽劇場照明設備改修（ＬＥＤ化１）工事

Ⅰ 工 事 概 要

1．工事場所　大阪府大阪市中央区日本橋1丁目１２－１０
2．完成期限　令和　９年　３月２５日（木曜日）
3．建物概要

建　物　名　称		文楽劇場			
工　　種		改修			
構　　造		ＲＣ造			
階　　数		地上５階地下２階			
建築基準法による	建築面積(㎡)	3,925㎡			
	延べ面積(㎡)	13,211㎡			
消防法施行令別表第一の区分		1項イ　劇場			
改 修 面 積 （㎡）		―			
備　　考		―			

4．工事種目（●印の付いたものが対象工事種目）

建物別及び屋外 ＼ 工事種別 ／ 工事種目	工事種別			
●電灯設備				
○動力設備				
○電気自動車用充電設備				
○電熱設備				
○雷保護設備				
○受変電設備				
○電力貯蔵設備				
○発電設備				
○構内情報通信網設備				
○構内交換設備				
○情報表示設備				
○映像・音響設備				
○拡声設備（非常放送設備）				
○誘導支援設備				
○テレビ共同受信設備				
○監視カメラ設備				
○駐車場管制設備				
○防犯・入退室管理設備				
○火災報知設備				
○中央監視制御設備				
○構内配電線路				
○構内通信線路				
●発生材処理				

5．指定部分　●無　　○有　対象部分（　　）
　　指定部分工期　　年　月　日
6．概成工期　●無　　○有　令和　年　月　日（　曜日）
（第1編1.1.2）、［第1編1.1.2］

Ⅱ 工 事 仕 様

1．共通仕様
（１）文部科学省発注工事請負等契約規則（文部科学省訓令第二十二号）別記第１号の工事請負契約基準、現場説明書、図面１０枚及び本特記仕様書２枚によるほか、●印の付いたものを適用する。
● 公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)(令和７年版)(以下「標準仕様書」という。)
● 公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編)(令和７年版)(以下「改修標準仕様書」という。)
● 公共建築設備工事標準図(電気設備工事編)(令和７年版)(以下「標準図」という。)
○ 文部科学省電気設備工事標準仕様書(特記基準)(平成31年版)(以下「文科仕様書」という。)
○ 文部科学省電気設備工事標準図(特記基準)(平成31年版)(以下「文科標準図」という。)
● 工事写真撮影要領(令和元年7月)

（２）機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合は、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの特記仕様書を適用する。
なお、機械設備工事の特記仕様書は（　　）図、建築工事の特記仕様書は（　　）図による。

2．特記仕様
（１）本特記仕様書の表記
１）項目及び特記事項は、●印の付いたものを適用する。
２）項目に記載の（第　編　．　．　）内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
３）項目に記載の［第　編　．　．　］内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
４）項目に記載の〈第　編　．　．　〉内表示番号は、文科仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。

項　目	特　記　事　項
○適用区分	建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。 ○ 風圧力 風速（Vo=　　m/s） 地表面粗度区分（ ○ Ⅰ　○ Ⅱ　○ Ⅲ　○ Ⅳ） ○ 積雪荷重 建設省告示第1455号における区域　別表（　　）
○電気保安技術者 （第1編1.3.2） ［第1編1.3.2］	この工事現場に下記のいずれかの電気保安技術者を選任する。

項　目　名	電気保安技術者
1.　第３種電気主任技術者以上の資格を有する者	○
2.　１級電気工事施工管理技士の資格を有する者	○
3.　第１種電気工事士の資格を有する者	○
4.　高等学校又はこれと同等以上の教育施設において、電気事業法の規定に基づく主任技術者の資格等に関する省令第７条第１項各号の科目を修めて卒業した者	○
5.　旧電気工事技術者検定規則による高圧電気工事技術者の検定に合格した者	○
6.　公益事業局長又は通商産業局長の指定を受けた高圧試験に合格した者	○
7.　２級電気工事施工管理技士の資格を有する者	○
8.　第２種電気工事士の資格を有する者	○
9. 短期大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上の教育施設の電気工学以外の工学に関する学科において一般電気工学（実験を含む）に関する科目を修めて卒業した者	○

	工事用電力を構外から引き込む場合は、法令に基づく有資格者を定め、監督職員に報告する。
●施工条件 （第1編1.3.3） ［第1編1.3.3］	本工事による、公演予定の変更はできない。劇場の公演（公演に関する稽古、準備を含む）を優先すること。令和８年１２月７日から１２月２４日まで、令和９年２月８日から１０日及び１５日から１８日までは、舞台整備期間により集中工事を行うことができる。劇場の公演予定について監督職員に常に確認を行うこと。確認を行うこと。
●発生材の処理等 （第1編1.3.9） ［第1編1.9.1］	発生材の処理は，下記による。 (1)　引渡しを要するもの 1）品　名　蛍光管 2）引渡し先　国立文楽劇場事業推進課 3）集積場所　地下２階機械室 4）集積方法　割れ物注意表記の上収納用段ボール等に保管 (2)　特別管理産業廃棄物 1）品　名 2）処理方法 (3)　現場において再利用するもの 1）品　名 2）使用場所 (4)　再生資源化するもの 1）品　名 (5)　その他の発生材 1）品　名　金属くず、プラスチック・ビニル類 2）処理方法　法規に基づき産業廃棄物として処理すること。

項　目	特　記　事　項
○環境への配慮 （第1編1.4.1） ［第1編1.4.1］	（１）本工事において、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成12年法律第100号）」に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（平成31年２月閣議決定）」に定める特定調達品目「公共工事」の品目を調達する場合は、判断の基準等を満たすものとする。 （２）建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。 ① 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 ② 接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 ③ 接着剤は、可塑性（フタル酸ジ－ｎ－ブチル及びフタル酸ジ－２－エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。 ④ ①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。 （３）設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の③又は④に該当する材料を指す。 ① 建築基準法施行令第２０条の７第１項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料 ② 建築基準法施行令第２０条の７第４項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 ③ 建築基準法施行令第２０条の７第１項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料 ④ 建築基準法施行令第２０条の７第３項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
●機材の品質等 （第1編1.4.2） ［第1編1.4.2］	（１）本工事に使用する機材等は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。 （２）下表に機材名が記載された製造業者等は、次の①から⑥すべての事項を満たす証明となる資料を提出して監督職員の承諾を受ける。ただし、次の①から⑥すべての事項を評価された事を示す外部機関が発行する書面を提出し監督職員の承諾を受けた場合は証明となる資料等の提出を省略することができる。 ① 品質及び性能に関する試験データを整備していること。 ② 生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。 ③ 安定的な供給が可能であること。 ④ 法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。 ⑤ 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ⑥ 販売、保守等の営業体制を整えていること。

機　材　名

○再使用機材 ［第1編1.4.3］	

項　目	特　記　事　項
●機材の検査等 機材の検査に伴う試験 （第1編1.4.4～5） ［第1編1.4.5～6］	監督職員の行う機材の検査及び機材検査に伴う試験は下記による。

機　材　名	検　査	試　験	摘　要
ＬＥＤ照明器具	外観		

●施工調査 ［第1編1.5.1～3］	事前調査　（●本工事　○別途　） 調査項目　（●既存資料調査　●既存設備　） 調査範囲　（○図示　●監督職員との協議　） **調査方法**　（○図示　●現地　）
●施工の検査等 施工の検査に伴う試験施工の立会い等 （第1編1.5.3～5） ［第1編1.6.4～6］	下記の施工部分は監督職員の施工の検査、施工の立会及び施工検査に伴う試験を受けるものとする。

施　工　部　分	検　査	立　会	試　験	摘　要
照明器具取付	●	●	●	点灯試験時

●撤去 ［第1編1.8.1～6］	既存照明器具
●完成時の提出図書 （第1編1.7.1～3） ［第1編1.11.1～3］	工事完成後提出する完成図等の種類及び提出部数は下記による。

名　称	体　裁　等	部　数
完　成　図	ＣＡＤデーター（電子納品）及び電子データー	1
完　成　図	原図Ａ１版	1
完　成　図	複写図（Ａ１判二つ折り仮製本）	2
保全に関する資料	製本（Ａ4判ファイル綴じ）	2
保全に関する資料	電子データー（ＰＤＦ）	1
工事写真	紙媒体	1

	ＣＡＤデーターは、ＪＷＷ、ＤＸＦ、ＰＤＦとする。
○足場その他 （第1編2.1.1） ［第1編2.2.2］	○ 別契約の関係受注者が定置したものは無償で使用できる。 ○ 本工事で設置する。 「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙１「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。 ○内部足場（ ○　種　○　種）○外部足場（○　種　○　種）
○発生残土の処理 （第1編2.2.1） ［第1編2.3.1］	○ 埋戻し後の建設発生土は、監督職員が指示する構内の場所に敷均しとする。 ○
●電源周波数	○　５０Ｈｚ　　●　６０Ｈｚ

	工事名称 国立文楽劇場照明設備改修（ＬＥＤ化１）工事	縮尺 ~~Ａ１：－~~ Ａ３：－	図面番号 特－01
	図面名称 特記仕様書（１）	令和　８年　６月	

項目	特記事項
●耐震措置	設備機器の固定は、次によるほか、「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」（独立行政法人建築研究所監修）による。 （１）設計用水平地震力 機器の重量[ｋN]に、設計用標準水平震度を乗じたものとする。 なお、特記なき場合は、設計用標準水平震度は、次による。

設計用標準水平震度

機器種別		○ 特定の施設		● 一般の施設	
		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階屋上及び塔屋	機器	2.0	1.5	1.5	1.0
	防振支持の機器	2.0	2.0	2.0	1.5
	水槽類	2.0	1.5	1.5	1.0
中間階	機器	1.5	1.0	1.0	0.6
	防振支持の機器	1.5	1.5	1.5	1.0
	水槽類	1.5	1.0	1.0	0.6
地階・１階	機器	1.0	0.6	0.6	0.4
	防振支持の機器	1.0	1.0	1.0	0.6
	水槽類	1.5	1.0	1.0	0.6

・上層階とは2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階以上の場合は上層4階とする。
・中間階とは地階、１階を除く各階で上層階に該当しないもの
・水槽類には燃料小出槽を含む。
・重要機器は次のものを示す。
○配電盤　○発電装置（防災用）　○直流電源装置
○交流無停電電源装置　○交換機　●自動火災報知受信機
○中央監視装置　●非常放送架　○

（２）設計用鉛直地震力
設計用水平地震力の１／２とし、水平地震力と同時に働くものとする。

○金属管の塗装及び仕上げ （第1編2.7.1） ［第1編2.8.1］	次の露出配管は、塗装を行う。 ○屋内（　　） ○屋外（　　） ○ 屋外に敷設する露出配管で溶融亜鉛メッキ仕上げを使用する場合は付着量300g/㎡以上とする。
●既存躯体への穿孔 ［第1編2.11.1～5］	● 穿孔機械を使用し、既存躯体に穿孔する場合は、金属探知により電源供給が停止できる付属装置等を用いて施工すること。 ○ はつり工事及び穿孔作業を行う場合は、下記による。 ○ 走査式埋設物調査 ○ 放射線透過検査
○電気工事士	最大電力５００〔ｋW〕以上の場合においても、電気工事士法（昭和35年法律第139号）に基づく有資格者により施工を行う。
○仮設備工事 ［第1編2.14.1～3］	仮電源　（○受変電　　） （○発電　　） 仮設備期間　（○図示　　）
●フラッシュプレート	フラッシュプレートは、図面に特記なき場合、 （●金属製（ステンレス、新金属を含む）　○樹脂製　）とする。
○機器取付高さ	図面に特記なき場合は、表－１「機器標準取付高さ」による。
○接地極	図面に特記なき場合は、表－２「接地極一覧表」による。
○他工事又は他工種との取り合い	図面に特記なき場合は、工事区分表による。

項目	特記事項
○電線・ケーブル等の規格 （第2編1.1.1） （第6編1.1.1） ［第2編1.2.1］	電線・ケーブル等の規格、記号で公共仕様書に定める以外のものは下記による。

呼称	規格	記号

○電線保護物類の規格 （第2編1.2.1～10） （第6編1.2.1～3）	電線保護物の規格で公共仕様書に定める以外のものは下記による。

呼称	規格	記号

○ケーブルの端末処理等 （第2編2.1.1） ［第2編2.1.2］	ケーブルの端末処理で、端末処理材を用いて処理する場所は下記による。

施工箇所及びケーブル種別	摘要

ケーブルの分岐処理で、分岐処理材を用いて処理する場所は下記による。

施工箇所及びケーブル種別 ＼ 種別	レジンモールド加工	モールド加工（工場加工）

●電線の色別 （第2編2.1.3） （第3編1.1.4） ［第2編2.1.4］	配線及び主回路の導体の色別は、次による。 ● 標準仕様書による。 ○ 配線及び主回路の導体の色別は、下記による。

	電気方式	第１相	第２相	第３相	中性相
高圧	三相３線式	赤	白	青	
低圧	三相３線式	赤	接地側　白	黒	
	三相４線式	赤	青	黒	白
	単相２線式	赤（青）	接地側　白		
	単相３線式	赤	青		白
	直流２線式	青	白		
配線	（１）分岐回路の色別		分岐前の色別による。		
	（２）発電回路の第２相		接地側の電線の色は黄色とする（無停電回路含む）		
	（３）切替回路の２次側		規定しない。		
	（４）漏電遮断器回路の接地		専用接地極とした時の接地線は、監督職員と協議し、一般接地線と色別を区別する。		
分電盤類	共通事項		配線（１）～（４）による。		
	左右・上下及び遠近の別は、正面から見た状態		ア）左右の別は、左からとする。 イ）上下の別は、上からとし、直流２線式は、下からとする。 ウ）遠近の別は、近いほうからとし、直流２線式は、遠いほうからとする。		

備考
（ａ）配電盤類については、次による。
（１）左右、遠近の別は、各回路部分における主となる開閉器の操作側又はこれに準ずる側から見た状態とし、分電盤類による。
（２）三相回路又は単相３線式回路より分岐する回路は、分岐前の色別による。
（３）三相交流の相は、第１相、第２相、第３相の順に相回転するものとする。
（ｂ）屋外架空配線の色別は、本表によらなくてよい。
（ｃ）接地線の色別は、監督職員の承諾を受けること。

●非常照明装置の照度測定箇所 （第2編2.18.2） ［第2編2.20.2］	１部屋あたり２箇所以上測定し、監督職員に報告する。

項目	特記事項
○特殊場所 〈第2編2.1.1～9〉	特殊場所は下記による。

特殊場所の内容	適用する場所	危険場所の種別	危険物の種類
○ 湿気の多い場所			
○ 気密性を要する場所			
○ ガス蒸気危険場所			
○ 粉じん危険場所			
○ 危険物等貯蔵場所			
○ 腐食性ガスのある場所			
○ 蠕害を受けるおそれのある場所			
○ 塩害を受けるおそれのある場所			

表－１　機器標準取付高さ

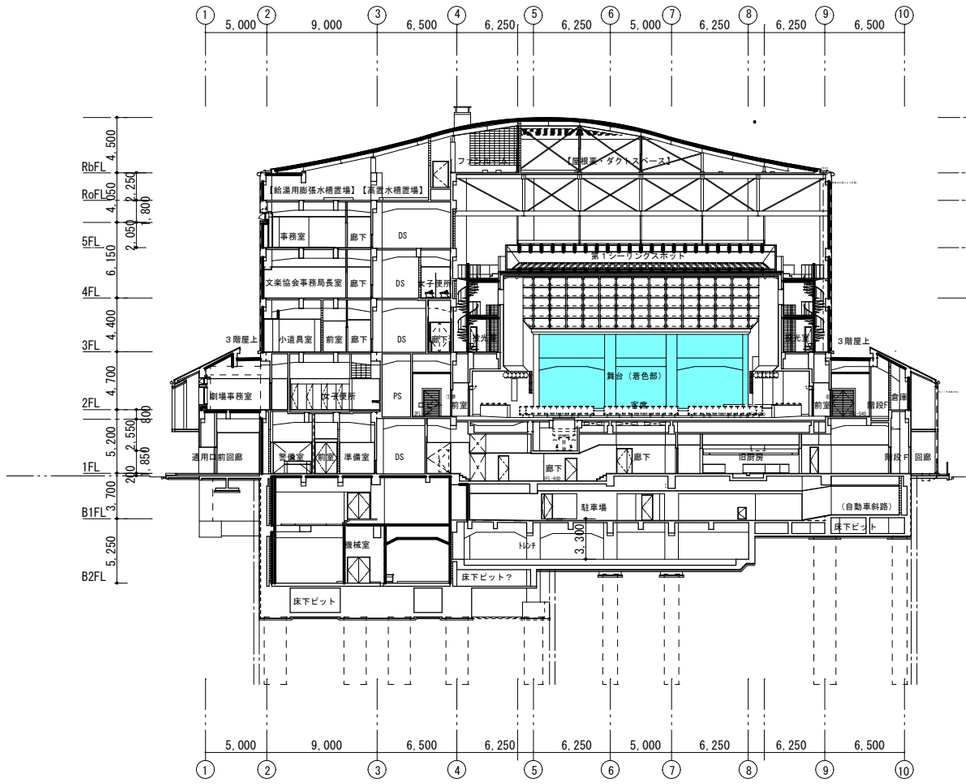
	名称	測点	取付高〔mm〕		名称	測点	取付高〔mm〕
電力共通	積算計器			出退・マルチサイン	情報・出退表示盤		
	引込開閉器				壁付発信機		
	分電盤				ベル・ブザー・チャイム		
					壁付押しボタン（一般）		
電灯	スイッチ						
	スイッチ（多機能トイレ）						
	コンセント（一般）			誘導支援	外部受付用インターホン（子機）		
	コンセント（和室）				壁付インターホン（上記以外）		
	コンセント（台上）				壁付呼出ボタン（多機能トイレ）		
	コンセント（車椅子用）				障害者用インターホン（子機）		
	ブラケット（一般）						
	ブラケット（踊場）						
	ブラケット（鏡上）						
動力	壁掛形制御盤			テレビ共同受信	機器収容箱		
	開閉器箱				テレビ端子・直列ユニット（一般）		
	制御用スイッチ				テレビ端子・直列ユニット（和室）		
雷保護	試験用接続端子箱						
受変電	接地端子箱			自動火災報知	受信機・副受信機 連動制御器	床面	
発電	給油口ボックス				機器収容箱	床面	
構内交換	端子盤（室内）				発信機	床面	
	集合保安器箱				警報ベル	床面	
	壁付電話機（一般）				表示灯	床面	
					ガス検知器（都市ガス用）		
時計	壁掛形親時計				ガス検知器（液化石油ガス）		
	子時計						
拡声	壁掛形スピーカ						
	壁付アッテネータ			屋外	接地極埋設標		

表－２　接地極一覧表

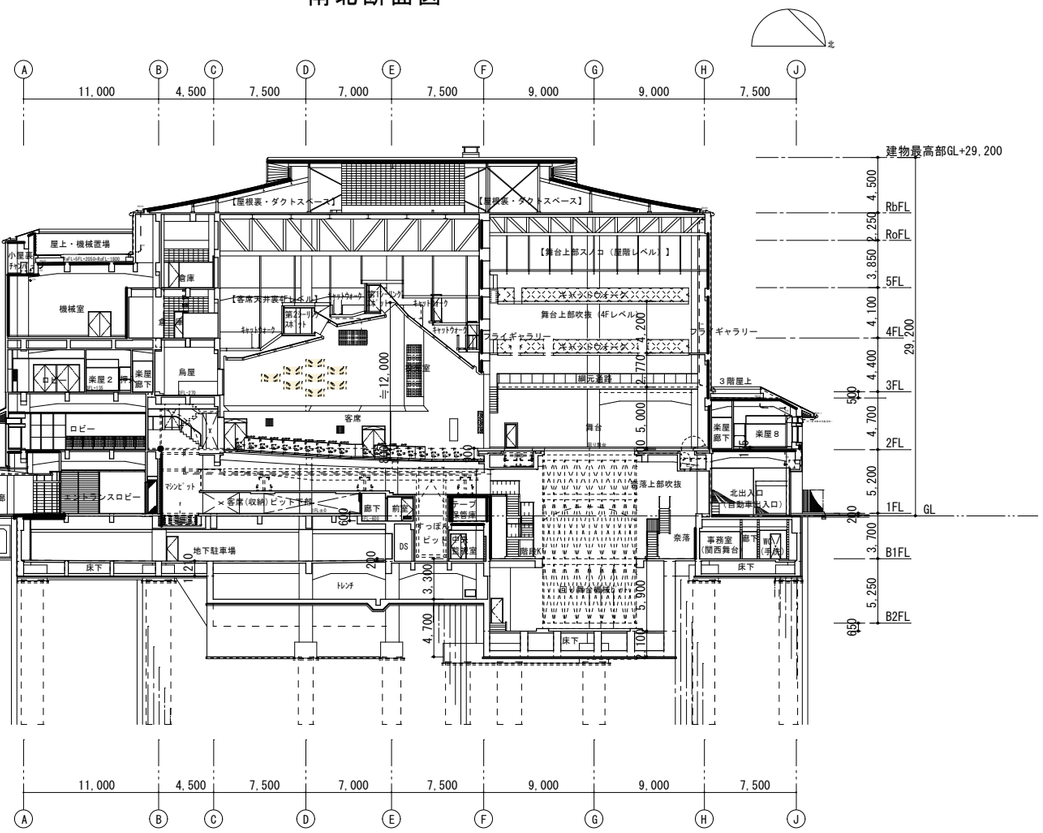
接地の種類	記号	接地抵抗	接地極の規格・数量
○ 共同接地	EA・D	10Ω以下	
○ 共同接地	EA・C・D	10Ω以下	
○ A種	EA	10Ω以下	
○ B種	EB	Ω以下	
○ C種	EC	10Ω以下	
○ D種	ED	100Ω以下	
○ 漏電遮断器回路用	EELCB	100Ω以下	
○ 高圧避雷器用	ELH	10Ω以下	
○ 交換装置用	Et	10Ω以下	
○ 通信用（10Ω）	EAt	10Ω以下	
○ 通信用（100Ω）	EDt	100Ω以下	
○ 電話引込口の保安器	ELt	100Ω以下	
○ 測定用	E0		

工事名称	国立文楽劇場照明設備改修（ＬＥＤ化１）工事	縮尺	A１：－ A３：－
図面名称	特記仕様書（２）		令和　８年　６月
		図面番号	特－02

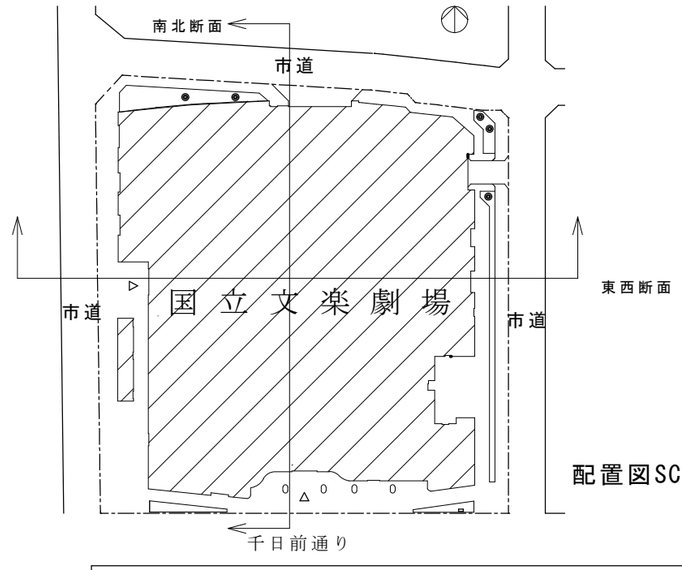
東西断面図



南北断面図







配置図SCALE1:1000

国立文楽劇場

工事名称	国立文楽劇場照明設備改修（ＬＥＤ化1）工事				
図面名称	付近見取り図、断面図				
縮尺	1/1000	図面番号	1／9	作成日	2026. 06

特記事項

照明器具表

既存器具形状		記号	LED更新照明器具	室名	台数	室名	台数	室名	台数	室名	台数	室名	台数
FLR40W(1灯)	直付け逆富士	A	XDL429DEN LE9	B2F　ハロンガス室	1								
			2500lm 昼白色										
FLR40W(2灯)	直付け逆富士	B	XDL459DEN LE9	B2F　ボイラー室	1								
			5200lm　昼白色										
FLR40W(1灯)	直付け片反射板	C	XFX420NEN LE9	B2F　工具室	3	B2F　機械室	4	B2F　電気室	4	4F　照明操作室（上部）	3	4F　電気室	6
			2500lm 昼白色	4F　シーリング照明	22	RF　屋根裏スペース	2						
FLR40W(1灯)	直付けトラフ	D	XFX429NEN LE9	B2F　電気室（注2）	1	B2F　機械室(注1)	7	B1F　機械室(注1)	3	B1F　奈落(注1)	7	B1F　排煙ファンルーム	2
			2500lm 昼白色	1F　テープ保管庫	4								
FLR40W(2灯)	直付けトラフ笠付	E	XFX459KEN LE9	B2F　機械室	17	B2F　電気室	4	B2F　発電機室	5	B1F　機械室	10	B1F　リフト機械室	1
			5200lm　昼白色	B1F　ファンルーム	2	3F　書庫１階	1	4F　研修室６(注3)	6	4F　機械室	20	4F　電気室	4
				RF　ファンルーム	6	RF　屋根裏スペース	10						
FLR40W(1灯)	埋込　W150	F	XFX429PEN LE9	2F　給湯室（ホール通路）	1								
			2500lm 昼白色										
FLR40W(1灯)	埋込　W190	G	XFX429REN LE9	3F　ＡＶ室通路	2								
			2500lm 昼白色										
FLR40W(2灯)	埋込連結　W300	H	XFX459VEN LE9	1F　入場券売り場	1								
			5200lm　昼白色										
FHP45W(4灯)	埋込カバー付き　600□	J	XL584PFVJ LE9	1F　予備室	2								
			8470lm　昼白色										
FLR40W(2灯)+IL1	直付け逆富士+電源別置型非常灯	B’	XDL459DGN LE9	B2F　ボイラー室	1	1F　収蔵庫	2						
			5200lm　昼白色										
FLR40W(2灯)+IL1	直付けトラフ笠付き+電源別置型非常灯	E’	XFX459KGN LE9	B2F　機械室	3	B2F　電気室	2	B2F　発電機室	1	B1F　機械室	4	3F　書庫１階	2
			5200lm　昼白色	4F　研修室６(注3)	2								
FLR40W(2灯)+IL1	埋込　W300+電源別置型非常灯	K’	XDL459VGN LE9	2F　楽屋ホール（頭取室）	1	2F　劇場事務室	2	3F　事務室	2				
			5200lm　昼白色										
FLR40W(2灯)+IL1	埋込連結　W300+電源別置型非常灯	H’	XFX459VEN LE9	1F　入場券売り場	1								
			+KO-LRS11-D6										

注１：ガード付（ステンレスクリア塗装）　注２：チェーン吊（チェーン再利用）　注３：パイプ吊L＝750mm

照明器具型番は、参考とする。

特記事項

国立文楽劇場					
工事名称	国立文楽劇場照明設備改修（ＬＥＤ化１）工事				
図面名称	照明器具表				
縮尺	NON	図面番号	2／9	作成日	2026．06